



ヨソモノから見た
地域レポート

たなかめ通信

From Fuki

Vol.21

2018.12発行



最近の活動紹介

皆さま、こんにちは。高野町むらづくり支援員（別称・地域おこし協力隊）の田中寛人（たなかひろひと）です。

大変寒くなってきましたね。私の家は一人暮らしだし家の改修にそんなにお金をかけられないので、外気温と室温との差があんまり無く、昼間は家の中の方が寒いです。暖房しても隙間も多いために空間が暖まらず、局所的なヒーターを使いながら、家の中でダウン着て、手袋しながらパソコン作業して過ごしています。寒い。

今回は通信第21号をお届けした



します。

先日、クリエイター系の友人を富貴に招いて「職人見学ツアー」を行いました。五人来てくれて、それぞれに発信力があり、百姓をしている音楽アーティスト夫婦、植物造形作家、植物繊維と糸を研究している物づくり作家、特別な繊維で縫製した服を作ったり未利用資源を活用している物づくり作家の皆さんが来てくれました。

私自身は食べ物系の素材を扱って商品化したり体験プログラムと

いう形で田舎を発信するのは得意なのですが、「食べられない」「木」「衣」「住」となるとあまり知識を持っておらず、餅は餅屋、もっと詳しい友人に教えてもらいながら高野町の農山村の部分発信できればと思い企画しました。ヒノキヒモも薄板も産業としては絶滅寸前で、今回のツアーを実施したことによる地域全体への直接的な効果はたぶんありません。ただ、プラスチック製ではなく、「木」の、「モノ」の本来の価値を知っている人達が現場を見てくれて、職人さんの話を聞いて更に詳しくなり、響きのファンになり、職人さんのファンになり、ひいては地域のファンになってくれる可能性があり、そうなればプロ同士のつながりにより、私が動かすモノの価値を知っている人同士々



最近の活動 続き

で勝手に情報が発信されて富貴や高野町の価値が上がり、モノの価値を知っている人が訪問してきたりします。そんな方々が地域を見て気に入る、移住につながることも多々あるので、そのような狙いも持って実施しています。来年3月末で私は高野町地域おこし協力隊の任期が終了するため、私が地域おこしの仕事から離れてもある程度継続的に良い影響が残っているような仕組みを考えて動いています。すぐには結果はでませんが、長い目で頂けたらと思います。

話は変わって11月3日に行われた「高野町交流ひろば」にて、筒香寄合会ブースにて販売のお手伝いを行いました。

今年は天候にも恵まれそれほど寒くはなく、特産品を使ったマツタケの炊き込みご飯、ミョウガの炊き込みご飯、ミョウガ味噌（おかず味噌）の良い匂いに包まれながら売り子を頑張りました。



今後の活動予定

このコーナーでは、私の今後の活動予定についてご紹介させていただきます。

※ただ、地域のみなさんと動いている案件につきましては、確定事項でなかったり、まだ社外秘だったり、行政からの許可が下りていないものもあるので、私の全ての活動を掲載してはおりません。ご了承ください。

①宿泊施設の営業

いなか暮らしやいななか体験に興味のある方の一時的な受け皿としての活用を考えております。最近イベント時の参加者の方に使って頂きました。

②地域資源の調査・実験

ヨソモノから見た富貴・筒香地区の「ココにしか無いモノ」を春夏秋冬の一年を通じて調査した結果を活用する予定です。情報発信、イベント化や体験プログラム化、商売化などを検討・提案していければと思います。継続して果樹、野草薬草、ハーブ、などを調査しています。

③筒香地区での仕掛け

筒香寄合会様と協働で加工品作りや、筒香を発信する仕掛けづくりを検討・実施しています。大学生による農作業の支援もサポートしています。

④神谷地区での仕掛け

南海電鉄と一緒に何かできないかなあと考えて、ちよつとだけ動いています。

⑤花坂地区での仕掛け

花坂の手作りコンニャクや金山寺味噌のファンが生まれており、来年の仕込み分の予約も取ってきました。ファンを通じてもっと認知を増やせればと考えています。

⑥富貴地区での仕掛け
特産のヒノキ紐や薄板を友人のクリエイター系の方にPRして広がっています。

また、薬草・古木の調査なども継続しておこなっています。

⑥地域紹介動画の作成

中山間地での田舎暮らしの現実の姿を紹介するために、富貴地区の一地点で春夏秋冬を通して風景を定点観測してそれを元に動画を作り、富貴中学校の学習発表会でお披露目させて頂きました。

⑦富貴で生計を立てるための仕事づくり
薬草について勉強して、「いなか」と思ったので、身近な薬草を活用した商品の販売を現在準備中です。

⑧県をまたいだ周辺地域との連携づくり
いつも橋本市に下りる時や富貴に上がってくる際に奈良県境と和歌山県境を往来していて、和歌山県の東端住んでいるのを実感するので、奈良県側と何か一緒に出来ないかと考えて動いています。12月に奈良と和歌山の農山漁村に住んでいる若者が交流するイベントを行いました。

直近ではこのような活動を行っておりますが、他にも「こんな地域になればいいのに」や「こんな活動をすれば良くなるのではないか」といった地域づくりに関わる皆様のご意見やご要望がありましたらご連絡下さい。お待ちしております。

なお、記載のほとんどの活動において役場からの具体的な指示が下りてきて動いているのではなく、私田中が自主的に検討して判断して行動しております。

探しモノ(物、景色、技術、人物など)の情報提供のお願い。 前号と被る場合もあります

●手作りホウキのいらないのあったら欲しいです。



手作りしていた時代の色んな植物から作られていたであろうホウキの見本が欲しいので、キレイな状態でも毛先が曲がっていても良いので「手作りホウキ」のもう使わないものがあればもらえないでしょうか。今使われているものを頂けるのであれば、ホームセンターの新品ホウキと交換で良いなら買ってきます

●年越し及びお正月の飾りつけや料理の写真が欲しいです。



地域独特の風習を探したいので、町内の各地域・各家庭ごとの年末年始の飾り付けや料理について調査したいのですが、この皆さんお忙しい時期に家庭訪問してご迷惑をおかけするわけにはいかないの、パソコンやデジカメを使える方で見とれていての方がおられたら、写真にとって頂いてデータで送ってほしいです（送り先は下部参照）。年が明けたら燃やしてしまうものや捨てしてしまうものもあると思うのですが、そんなものも高野町の文化の一部だと考えており、独特なものがあると思うので、特徴を探せればと思います。撮影された内容については改めて電話などで詳細を伺わせてください。

活動報告つづき

前回奈良県で薬草のシンポジウムにて出会った方の紹介で、京都に行ってきました。

私自身としては高野の山村で産業となりうる薬草を探しており、

- ・耐寒性がある
- ・毎年収穫できて換金性が高い
- ・高齢者でも扱えるように背が低い作物
- ・収穫時の一つあたりが重くない作物
- ・あとあと加工もしやすい作物(6次産業化)
- ・種を毎年自家採取できて買わなくても良い
- ・少量からでも買い取ってくれる
- ・他の地域では栽培されておらず差別化できる種類

などの観点から探していますが、京都の高野と同じような山村で活動されている方から紹介があり、上記に該当する(かもしれない)薬草について教えて頂きに行ってきました。

確かに話を伺う限りは良さそうだったので、少し動く予定です。



現場の飲食店では、地元で採れた山菜や川魚や川エビを使い、手作りでのお漬物やお惣菜を提供された。また、商品開発なども行われていました。

編集 後記

今年もお世話になりました。それでは皆様よいお年を。

今号もご高覧頂きありがとうございました。師走に入ってから寒い時期になりましたが(予定は無かったのに)まだまだイベントをしています。年末が近づいているのにまだまだ落ち着かないです。

一度出かけたならその日は色々用事を組み合わせて朝から晩まで何かしていることも多く、出かけた先から帰るのも毎回しんどいので和歌山県内出張でもよく車中泊をするのですが、軽で狭いし、そろそろ寒さが大変厳しいです...

発行元

「たなかめ通信」 Vol. 21 2018年(平成30年)12月
制作・編集者／
高野町むらづくり支援員(地域おこし協力隊) 田中寛人 たなかひろと
〒648-0402 和歌山県伊都郡高野町東富貴519-2
Tel : 090-7486-1139
Mail : saikoro3@gmail.com



たなかめ通信

From Fuki

Vol.22

2019.01発行



最近の活動紹介

皆さま、こんにちは。高野町むらづくり支援員（別称・地域おこし協力隊）の田中寛人（たなかひろひと）です。

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

暖冬のおかげで雪が積もることがほとんど無く、去年よりも色々動き易くてありがたいです。

今回は通信第22号をお届けいたします。なお、私の地域おこし協力隊としての任期が残り3ヶ月を切り、後任も居ないようなのでこの新聞の発行もそれに併せて終了になります。

今回は富貴地区や筒香地区に何か埋もれているお宝は無いかなあと自主的に色々地域資源を探していて、二年間かけて調査し続けている「スモモ」の調査報告です。二年間かけてある程度の結果が出ました。結果としては、貴重な品種のスモモでした。

※ここで一旦スモモの歴史の豆知識をお勉強。

「ニホンスモモ」の原産地は中国。歴史は古く、日本には弥生時代に中国より渡来したと考えられ、古事記や万葉集に「李」としてその名が見られます。当時は観賞用だったものが、江戸時代に入り食用も盛んになり、明治以降に果樹園の栽培が始まったようです。19世紀後半、この「ニホンスモモ」がアメリカに渡り、アメリカの品種と交配されます。これを再び逆輸入し、さらに品種改良を施したのが現在のスモモです。

調査対象は富貴地区の「黄スモモ」と呼ばれている古木、及び筒香地区3ヶ所にある古木で、元東京農業大学のスモモ研究者の方に葉・

花・実及び種をそれぞれの季節に併せて採集して調査して頂いきました。結果は富貴地区のスモモが一番希少で現在広まっている大石早生のような「ニホンスモモ」でもサンタローザのような「ニホンスモモ」とアメリカスモモの交配種でも無く、ヨーロッパから中国ウイグル地区まで広く分布している「ミロバランスモモ」そのものか非常に近縁な種であろうということでした。そして筒香地区のスモモは3ヶ所のうち2ヶ所が現在でも広く流通している大石早生とソルダムで、残り1ヶ所が古い品種のメスレー（古木は珍しい）、というものでした。

弥生時代にニホンスモモが大陸から日本に入ってきたと推定されていますが、このミロバランスモモは日本にいつ入ってきたかは定かではなく、遺物も少ない上に現在でも日本の非常に一部にしか存在していない貴重な種類です。まだ形態的な部分でしか鑑定して頂いていませんが、この黄スモモの木は全国的に見ても非常に貴重な個体ということでした。



スモモと比較すれば劣りますが、果実が多くできるようなので本数を増やせば十分食品加工できますし、ニホンスモモの受粉親としての利用や、寒い土地に適応していることで耐寒性が高く接ぎ木台としての能力も高いようです。

なお、現在はその貴重なスモモの古木が一本しかないのに、枯れたら終わりなので冬の間に枝を採って専門家の先生と果樹農家さんに送り、種の保存のために場所を変えて保存して頂く予定です。私田中も動きませんが、地域で守る・残す・増やす（そして活用する）ということを検討して頂けたら幸いです。



最近の活動 続き

旧筒香小学校で三回目のコスプレ撮影会を実施しました。

今回は遠く京都や兵庫からお越しただいて、学校を活用して頂きました。

前々回や前回はサバイバルゲーム風だったり、浴衣姿だったり運営側の想定外の格好で撮影されていてビックリしましたが、今回は制服を着て学園モノ風の学校らしい撮影風景でした。

現場に到着されて着替えるまで「テーマ」が分からないので、毎回ワクワクしながら「今日はどんな使われ方かな」と撮影現場を覗かせて頂いています。

カメラマンの方にもコスプレヤーの方にも好評で遠くからでもわざわざ時間をかけて来てくれるツールに「廃校撮影会」が育ってきたので、私が地域おこし協力隊の任が終了する4月以降も是非とも地域のみなさんで運用して頂いて筒香小学校を撮影会の会場として貸し出してもらえたらいいなと思います。



今後の活動予定

このコーナーでは、私の今後の活動予定についてご紹介させていただきます。

※ただ、地域みなさんと動いている案件につきましては、確定事項でなかったり、まだ社外秘だったり、行政からの許可が下りていないものもあるので、私の全ての活動を掲載してはおりません。ご了承ください。

①宿泊施設の営業

いなか暮らしやいななか体験に興味のある方の一時的な受け皿としての活用を考えております。最近イベント時の参加者の方に使って頂きました。

②地域資源の調査・実験

ヨソモノから見た富貴・筒香地区の「ココにしか無いモノ」を春夏秋冬の一年を通じて調査した結果を活用する予定です。情報発信、イベント化や体験プログラム化、商売などを検討。提案していければと思います。継続して果樹、野草薬草、ハーブ、などを調査しています。

③筒香地区での仕掛け

筒香寄合会様と協働で加工品作りや、筒香を発信する仕掛けづくりを検討・実施しています。大学生による農作業の支援もサポートしています。

④神谷地区での仕掛け

南海電鉄と一緒に何かできないかなあと考えて、ちよつとだけ動いています。

⑤花坂地区での仕掛け

花坂の手作りコンニャクや金山寺味噌のファンが生まれており、来年の仕込み分の予約も取って頂きました。ファンを通じてもっと認知を増やせればと考えています。

⑥富貴地区での仕掛け
特産のヒノキ紐や薄板を友人のクリエイター系の方にPRして広がっています。

また、薬草・古木の調査なども継続しておこなっています。

⑦富貴で生計を立てるための仕事づくり

薬草について勉強して、「いなか暮らし」と思ったので、身近な薬草を活用した商品の販売を現在準備中です。

⑧県をまたいだ周辺地域との連携づくり

いつも橋本市に下りる時や富貴に上がってくる際に奈良県境と和歌山県境を往來して、和歌山県の東端住んでいるのを実感するので、奈良県側と何か一緒に出来ないかと考えて動いています。12月に奈良と和歌山の農山漁村に住んでいる若者が交流するイベントを行いました。

⑨地域紹介動画の作成

中山間地での田舎暮らしの現実の姿を紹介するために、富貴地区の一地点で春夏秋冬を通して風景を定点観測してそれを元に動画を作り、富貴中学校の学習発表会でお披露目させて頂きました。

⑩富貴で生計を立てるための仕事づくり

薬草について勉強して、「いなか暮らし」と思ったので、身近な薬草を活用した商品の販売を現在準備中です。

⑪県をまたいだ周辺地域との連携づくり

いつも橋本市に下りる時や富貴に上がってくる際に奈良県境と和歌山県境を往來して、和歌山県の東端住んでいるのを実感するので、奈良県側と何か一緒に出来ないかと考えて動いています。12月に奈良と和歌山の農山漁村に住んでいる若者が交流するイベントを行いました。

⑫地域紹介動画の作成

中山間地での田舎暮らしの現実の姿を紹介するために、富貴地区の一地点で春夏秋冬を通して風景を定点観測してそれを元に動画を作り、富貴中学校の学習発表会でお披露目させて頂きました。

活動報告つづき

和歌山県×奈良県の地域おこし協力隊交流会、開催しました。

先日橋本市で個人的に自主的に和歌山県・奈良県両県の地域おこし協力隊隊員（私田中と同じように農山村で活動している人たちです。各市町村ごとに今はいます。）の方に集まって頂いて「勉強会・交流会」を実施させて頂きました。

地域おこし協力隊隊員は右から左へ受け流す仕事ではなくこれまでに無かった創造的なコトも行うので活動をする上で様々な課題があり、「地域の課題解決のための課題」であればそれは課題が存在するのが当たり前のコトなのですが、「それ以外の本来であれば悩まなくても良かったかもしれない課題」も市町村の担当者のレベルによっては大量発生しています。それを行政職員にぶつけてものれんに腕押しな状況が多いので、現実的に困っている隊員のみんで集まって自分達で解決していこう、地域を越えて助け合えることは助け合おうと考えて企画しました。

両県から総勢22名の参加者となり、ただ「交流する」だけでなく、「スキルシェア」「課題共有」「協力隊達による大型自主イベントの提案」などを行って、アンケート結果を見るとリップサービスもあるとは思いますが、気づきや学びを少しでも持って帰っていただき、今後のそれぞれの協力隊活動へとつなげることができたかなあと感じています。



活動報告つづき

草刈り一緒に行いました～。



筒香寄合会や大学生の皆さんと一緒に道沿いのカヤ刈りを行いました。前年も行ったのですが一年分の成長をしてボーボーになっていたカヤをさっぱりできました。オヤツに頂いた焼きミカンが甘くて美味しかったです。あと、普通の軍手と鎌で作業していたら、軍手の荒い隙間からくっつき虫系の雑草やチカラシバの穂がどんどん入ってきていて、終わった頃には皮膚にたくさん刺さっていました……。枯れた後の手刈りするときはもっと隙間の無い手袋じゃないとダメですね、忘れていました。



発行元

「たなかめ通信」 Vol. 22 2019年(平成31年)01月
制作・編集者／
高野町むらづくり支援員(地域おこし協力隊) 田中寛人たなかひろと
〒648-0402
和歌山県伊都郡高野町東富貴519-2
Tel : 090-7486-1139
Mail : saikoro3@gmail.com

編集 後記

今号もご覧頂きありがとうございます。肉の味噌漬・塩漬があら、「砂糖漬」がとってもいいじゃないか、と思って五年前に鶏肉の生を砂糖だけで漬けてみましたが、そして五年後、開けてみたら、餡色(コハク色)の輝く塊になつていました。臭みなし、加熱せずにそのまま食べられる。食感はやつととネっとり。噛めば噛むほど奥から旨みが出てくる。甘さは残っているが、くどくは無い。大変美味しゅうございました。数日経っても体に異常なし！保存食の力はスゴイ。